

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 下呂特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月17日(月) 9:30～11:30
- 3 開催場所 下呂特別支援学校(多目的室)
開催にあたり、実践発表(居住地校交流)及び授業参観を実施した。
- 4 参加者

会長	目次 丈太	佐橋工業株式会社(生産管理部長)
副会長	長谷川 和正	株式会社ハウテック(総務部長)
委員	細江 節子	下呂市単位民生委員児童委員協議会(主任児童委員)
	今井 弘樹	下呂市小川区長
	今井 広一	加子母むらづくり協議会(教育分科会)
	井口 フキ子	益田山ゆり園(施設長補佐)
	田中 篤	下呂市障がい者生活相談センター(相談員)
	西垣内 弘子	下呂市福祉部こども家庭課(対策監)
	深谷 享子	下呂特別支援学校PTA会長
学校側	長瀬 朋彦	校長
	林 哲治	教頭
	熊崎 高志	事務長
	原 るみ子	小中学部主事
	小栗 毅石	高等部主事
	石原 さゆり	教務主任

5 会議の概要

(1) 実践発表(居住地校交流)・授業参観の感想及び意見について

- 意見1: 居住地校交流は、毎年行っているのか。
⇒平成25年からの制度であり、保護者の希望があれば毎年行う。
- 意見2: 中学校で居住地校交流を行った生徒が、交流校の生徒に街中で声を掛けられたことがあった。こういう姿につながるのではとてもよい。
- 意見3: どのように居住地校交流の活動内容を決めているのか。
⇒担任間で打ち合わせを行い一緒に行う教科を決めている。その上で参加方法を工夫したり、事前学習を行って準備をしたりしている。
- 意見4: 高等部の1年生が、3年生に変わって緊張しながら作業学習の作業内容を説明してくれた。今後の成長が楽しみである。

(2) 令和6年度 下呂特別支援学校 自己評価について

- 意見1： 児童生徒の諸課題について教師が寄り添ってくれている。学校だけで問題を抱え込まず、他機関と連携していけるとよい。福祉の面などでは、事前に学校と情報共有を行えると卒業後の対応につなげていける。
- 意見2： 居住地校交流は、直接会うことで、集団との関りや集団内の行動について学べる機会であり、とても大切である。相手校にとっても障がいの理解など有意義である。日程調整など大変なところはあるが、続けていってほしい。
- 意見3： 施設においても強度行動障害への対応は、大きな課題となっている。学校段階での支援や対応は重要である。
- 意見4： 日課の変更によってできた放課後の時間を授業の準備や自己研鑽の時間に充て、児童生徒にゆとりをもって指導ができるようになるとよい。
- 意見5： 業務のDX化は、始めはとっつきにくさはあるが、ぜひ推進してほしい。学校からの運営協議会の出欠確認やアンケートなど答えやすくなっている。
- 意見6： 高等部の太鼓とバザーは、地域へのアピール力があり、期待感も高まっている。今後、高等部の生徒数が減り継続が難しくなることが考えられるが、工夫しながら実施して行ってほしい。

6 会議のまとめ

- ・児童生徒の課題については、他の専門機関との連携が大切であることが再確認できた。今後も協力を得ながら困難なケースなどに対応していきたい。また、福祉との連携を図りながら卒業後の進路などにつなげていきたい。
- ・今回、居住地校交流について焦点を当て実践報告を行ったが、どの委員からも交流の継続的な実施について学校に強い要望がなされた。職員には、運営協議会での評価を説明して再度その意義と成果を確認する。
- ・本校の和太鼓とバザーに対する委員の評価は高く、少人数化に伴い同程度の内容を継続していく難しさはあるが、体制を含めて工夫して取り組んでいく。
- ・DX化に向けてさらに推進できるよう、誤発信やセキュリティーの面での懸案事項を回避できるようなシステムを確立して積極的に活用できるようにする。